

SYLLABUS
シラバス
令和6年度

視能訓練士科

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
種々の臨床課題に取り組んでいくためには、医療・医学への深い洞察のもと、人体の構造と機能の系統的な知識に基づき、生命現象を総合的に理解できる能力が必要になります。この能力獲得のために、【基礎医学 I】では、第1部として医療、医学の歴史的背景、現代的課題を理解します。続いて第2部では人体における生命現象を解剖学、生理学的視点から学びます。				
授業の到達目標				
①医療・医学の歴史的背景、現代的課題が説明できる ②人体の肉眼的解剖の概略が説明できる ③人体でみられる生理学的機能の概略が説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	第1部	医療、医学の目指してきたもの	1	医療と医学
2		〃	2	健康への願い
3		〃	3	医療の変遷 (1) 西洋医学の変遷
4		〃		(2) 日本での変遷、統合医療
5		〃		(3) 現代医療の課題
6	第2部	肉眼的観察による人体の構造と機能	1	人体の基本
7		〃	2	骨格・運動器系
8		〃	3	神経系 (1) 中枢神経系の構造
9		〃		(2) 中枢神経系の機能
10		〃		(3) 脳神経と末梢神経系
11		〃	4	感覚系
12		〃	5	循環器系、免疫系
13		〃	6	呼吸器系、消化器系
14		〃	7	内分泌系、泌尿器系、生殖器系
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能 第1版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
看護学入門1 人体のしくみと働き	橋本 尚詞 編		メヂカルフレンド社	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>種々の臨床課題に取り組んでいくためには、生命現象を総合的に理解する能力が必須になります。 【基礎医学Ⅱ】では、人体を細胞レベルで考える組織学的視点を出発点として、遺伝子レベルまで視野を広げ、生化学、免疫学、発生学的視点や病理学的視点から、視機能に関連する事項に言及しつつ、総合的に人間における生命現象を学んでいきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>① 一般的な細胞の構造をもとにして、特別な機能を持つようになった細胞の構造と機能が説明できる ② 各種臨床検査の意義とその基準値が説明できる ③ 人体の発生、成長、老化の過程が説明できる ④ 人体の構造と機能の障害をきたす各種の疾病の概略が説明できる</p>				
授業計画				
回	内容			
1	第3部 顕微鏡的観察による人体の構造と機能	1	細胞、組織、器官	
2	〃	2	神経組織	
3	〃	3	支持組織	
4	〃	4	筋組織、上皮組織（1）	
5	〃	5	上皮組織（2）	
6	第4部 各種検査から見える人体の構造と機能	1	バイタルサイン	
7	〃	2	血液生化学検査	
8	〃	3	免疫学的検査	
9	〃	4	遺伝子検査	
10	〃	5	画像診断	
11	第5部 人体の発生、成長と老化	1	発生と老化	
12	〃	2	移植医療	
13	第6部 人体の構造と機能の異常	1	炎症、感染症	
14	〃	2	細胞障害	
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能 第1版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
視能学 第3版	小林義治、他 編		医学書院	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学 I		講義・演習	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
基礎視能矯正学 I では眼位と両眼視、外眼筋の作用、眼球運動について学びます。ここでの知識の習得は後の視能矯正学等の発展に不可欠です。まずは正常を理解し、視能障害を分析的に考える力を養います。				
授業の到達目標				
視能矯正学・視能訓練学に発展するために眼位と両眼視、眼球運動の基本的知識を習得する。 ①正常両眼視機能の成立を理解する。 ②複視の起こり方を眼位別にイメージができる。 ③網膜対応を状態別にイメージができる。④外眼筋の作用、眼球運動のメカニズムを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 眼位の定義 眼位の種類 眼位の状態 斜視・斜位の種類			
2	両眼視の定義 正常両眼視機能 (両眼視野 実際空間と視空間 網膜対応) 確認テスト①(眼位)			
3	正常両眼視機能 (ホロプタ円 Panumの融像感覚圏)			
4	正常両眼視機能 (同時視 融像 深径覚)			
5	正常両眼視機能 (静的立体視と動的立体視 抑制) 両眼視機能の発達 両眼視機能成立の条件			
6	確認テスト② (両眼視)			
7	両眼視機能の異常 (両眼視機能の異常と程度 複視)			
8	両眼視機能の異常 (複視 抑制 混乱視)			
9	確認テスト③ (複視)			
10	両眼視機能の異常 (網膜対応異常)			
11	確認テスト④ (網膜対応異常)			
12	外眼筋の単独佐用① 確認テスト⑤ (複視 網膜対応異常)			
13	外眼筋の単独佐用②			
14	単眼運動とその法則・両眼共同運動・共同筋と拮抗筋			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		理解の確認のため随時行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅱ		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である視能検査の目的と方法及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的と方法を説明することができる。 ②検査結果から固視・眼位・両眼視の状態を評価できる。				
授業計画				
回	内容			
1	固視検査（検査の目的、角膜反射による固視検査、両眼性固視検査）			
2	固視検査（直像鏡による固視検査、その他の固視検査）			
3	単眼性眼位検査（検査の目的、各検査の手順）			
4	単眼性眼位検査（各検査の手順・結果の評価）			
5	両眼性眼位検査（角膜反射による方法）			
6	両眼性眼位検査（遮閉試験）			
7	両眼性眼位検査（プリズム遮閉試験）			
8	両眼性眼位検査（Maddox杆を用いる方法）			
9	両眼性眼位検査（回旋偏位の測定方法）			
10	大型弱視鏡検査（測定原理、検査の目的、他覚的斜視角検査）			
11	大型弱視鏡検査（自覚的斜視角検査、網膜対応検査）			
12	大型弱視鏡検査（融像検査、立体視検査）			
13	まとめ（固視検査・単眼性眼位検査）			
14	まとめ（両眼性眼位検査）			
15	まとめ（大型弱視鏡検査）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
幾何光学		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
眼科で取り扱う検査機器には多くのレンズが使用されています。この授業では、光学の基礎を修得するために「光の性質と特徴」と「レンズの作用」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①光の性質を説明できる。②レンズの構造や結像を図示することができる。③レンズ屈折力の計算ができる。④プリズムの計算ができる。⑤眼球の光学的特性を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	光の性質			
2	光の単位、屈折率			
3	屈折の法則			
4	臨界角と全反射			
5	確認テスト			
6	レンズの種類、レンズの主要点			
7	レンズの屈折力			
8	レンズによる結像			
9	Vergence、レンズの倍率			
10	プリズム① 偏向角の計算			
11	プリズム② プリズム合成			
12	プリズム③ Prenticeの法則			
13	鏡、収差、フィルター			
14	模型眼、眼の軸と角度			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学	和田直子 他	医学書院		
自由記載				
備考				
定規を持参してください。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚情報処理学		講義	谷口 誠典・菊地 雅史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚情報処理過程を系統的に学ぶ。				
授業の到達目標				
①神経系の構造と機能を理解する。 ②視覚路、対光反射の経路を理解する。 ③視覚情報処理（統合系）の基礎を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	神経の構造と機能（中枢神経系と抹消神経系）			
2	脳葉・脳溝・脳回、大脳の機能局在			
3	神経細胞（ニューロン）			
4	活動電位（脱分極）			
5	伝導と伝達			
6	統合系 視覚路（初期視覚路、並列情報処理、眼優位性コラム、高次視覚野における情報処理）			
7	" 単眼奥行き手がかり、両眼奥行き手がかり			
8	" 両眼視差、両眼加算、両眼視野闘争両眼視細胞と受容野			
9	対光反射			
10	出力系 眼球運動神経と外眼筋			
11	" 眼球運動神経の解剖生理			
12	" 固視微動、外眼筋の位置覚と自己受容器			
13	眼球運動系視覚情報処理①（菊地Dr.）			
14	眼球運動系視覚情報処理②（菊地Dr.）			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	日本視能訓練士協会 監修		医学書院	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	日本視能訓練士協会 監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学 I		講義・演習	山本 雅美・荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
眼科検査の中で、視野検査は他の診療科との連携の上でも重要な検査です。信頼できる検査結果を求めるために、正確な知識と手技が必要です。本講義では、視野検査に関わる基本的知識・視野異常について理解をし、基本的な検査方法を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視野検査に関わる基本的な知識を説明することができる。 ②視野異常について説明することができる。 ③正常視野に対する各視野検査を正確に実施することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視野とは 視野を理解するための解剖			
2	視野検査を理解するための視覚生理学			
3	動的視野検査①			
4	動的視野検査②			
5	静的視野検査①			
6	静的視野検査②			
7	その他の視野検査			
8	視野測定演習①			
9	視野測定演習②			
10	視野測定演習③			
11	視野測定演習④			
12	視野測定演習⑤			
13	視野異常 (網膜色素変性症・緑内障)			
14	視野異常 (視神経疾患 視路疾患)			
15	視野異常 (その他の疾患)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポートを作成できているかを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 他	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他	医学書院		
理解を深めよう 視野検査 第1版補訂版	松本長太 他	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学Ⅱ		講義・演習	宮崎 茂雄・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚系は眼の光学系、視覚伝導系、眼の運動系からなる情報処理機構であり、脳により統合処理されている。本講義では視覚系の基礎的知識（光覚・色覚）を習得し、視覚に関わる信号処理のメカニズムについて理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
視覚の仕組みと視機能・視知覚との関連を考えることが出来る。 適切な検査手技により、検査結果を導くことが出来る。 検査結果から適切な評価が出来る。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚あれこれ（1）視覚生理学・視覚心理学（担当：宮崎茂雄）			
2	視覚あれこれ（2）視覚認知学（担当：〃）			
3	視覚あれこれ（3）色彩の心理と認知（担当：〃）			
4	網膜の光化学（担当：荒木渚）			
5	色についての基本的知識（担当：〃）			
6	先天色覚異常（1）種類（担当：〃）			
7	先天色覚異常（2）遺伝（担当：〃）			
8	後天色覚異常（担当：〃）			
9	色覚検査（1）仮性同色表（担当：〃）			
10	色覚検査（2）色相配列検査（担当：〃）			
11	色覚検査（3）アノマロスコープ（担当：〃）			
12	色覚検査【演習】（担当：〃）			
13	色覚検査【演習】（担当：〃）			
14	光覚検査（担当：〃）			
15	光覚検査【演習】（担当：〃）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	第4回～15回の内容を定期試験の出題範囲とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理 I		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視器（眼球とその付属器）の正常構造と生理機能が説明できることを目的とします。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものになります。【視器の解剖生理 I】では眼球自体の解剖と生理を多数のイラストの入ったオリジナル資料で理解していきます。さらに、演習では教科書などを参考にして知識を深め、確実なものにしていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視器全体の構造を明確に図示できる。 ②眼球各部の構造と機能が説明できる。 ③成人眼球での標準的な数値（眼軸長、屈折力など）が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	視覚と視覚器の概略		(宮崎)	
2	視覚と視覚器の概略 演習		(山本)	
3	眼球外膜：角膜・強膜		(宮崎)	
4	眼球外膜：角膜・強膜 演習		(山本)	
5	眼球中膜：ぶどう膜 (1) 虹彩・毛様体		(宮崎)	
6	眼球中膜：ぶどう膜 (1) 虹彩・毛様体 演習		(山本)	
7	眼球中膜：ぶどう膜 (2) 脈絡膜・隅角		(宮崎)	
8	眼球中膜：ぶどう膜 (2) 脈絡膜・隅角 演習		(山本)	
9	眼球内膜：網膜 (1) 10層構造と中心窩		(宮崎)	
10	眼球内膜：網膜 (1) 10層構造と中心窩 演習		(山本)	
11	眼球内膜：網膜 (2) 網膜の構成細胞		(宮崎)	
12	眼球内膜：網膜 (2) 網膜の構成細胞 演習		(山本)	
13	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体		(宮崎)	
14	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体 演習		(山本)	
15	総括：関連する国試既出問題		(宮崎)	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載		講義内容に沿ったプリント資料を配布します。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理Ⅱ		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視覚系の正常構造と生理機能が説明できることを目的としています。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものです。【視器の解剖生理Ⅱ】では眼球付属器、脳内での視覚伝導路と眼球運動制御機構、視器の発生と加齢変化をオリジナル資料によって把握し、教科書などを用いる演習で確実な知識に深めていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①眼球付属器の構造と機能が説明できる。 ②脳内での視覚伝導路が説明できる。 ③眼球運動制御機構が説明できる。 ④眼球の発生と加齢変化が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器（宮崎）			
2	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器 演習（山本）			
3	眼球付属器：眼窩・外眼筋（1）（宮崎）			
4	眼球付属器：眼窩・外眼筋（1）演習（山本）			
5	眼球付属器：外眼筋（2）（宮崎）			
6	眼球付属器：外眼筋（2）演習（山本）			
7	眼と脳：視覚伝導路（宮崎）			
8	眼と脳：視覚伝導路 演習（山本）			
9	眼と脳：眼球運動制御機構（宮崎）			
10	眼と脳：眼球運動制御機構 演習（山本）			
11	眼球の発生と加齢変化（宮崎）			
12	眼球の発生と加齢変化 演習（山本）			
13	総括（1）：関連する国試既出問題（宮崎）			
14	総括（2）：視器の解剖生理Ⅰまとめ（山本）			
15	総括（3）：視器の解剖生理Ⅱまとめ（山本）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学概論		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>視能矯正の枠組みを理解し、3年間の視能訓練士科での学びに向けてレディネスを整えることを目的とする。 視能訓練士・視能矯正の枠組みを理解できるよう、理念や歴史、倫理などといった項目に分けて講義を進めます。 さらに、ポートフォリオを活用し、目指すべき視能訓練士像を描き、主体性を高め、自ら学ぶ力を身につけることを目的としています。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視能矯正の枠組みを理解する。 ②医療社会における視能訓練士の役割を理解し、自分の目指すべき視能訓練士をイメージできる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・視能矯正の理念			
2	視能矯正の歴史			
3	視能矯正の展開			
4	視能訓練士の倫理①職業倫理			
5	視能訓練士の倫理②インフォームドコンセント・リスボン宣言			
6	視能訓練士の教育・視能訓練士の資質と適性			
7	グループワーク「目指すべき視能訓練士になるために」			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	講義内容の理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	グループワーク、グループディスカッションの取り組みに対して評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	公益財団法人日本視能訓練士協会	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学特論 I		講義・演習	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本科目では、視能訓練士として必要な基本的資質の向上を目指す。クラスメイトだけでなく、他学年や他学科との交流を通して、コミュニケーションスキルを育成し、良好な人間関係を構築するための方法を認識・実践することを目的とする。また、学習方法を学び、知識の定着を図ることも目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>医療従事者として望ましい言葉遣いができる。 他者との円滑なコミュニケーションが取れる。 学習習慣を定着することができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション①			
2	オリエンテーション②			
3	眼科検査を被験者として体験する			
4	課題学習①			
5	課題学習②			
6	課題学習③			
7	レクリエーション①			
8	レクリエーション②			
9	1年前期の学びを振り返る			
10	IPE①			
11	IPE②			
12	IPE③			
13	IPE④			
14	IPE⑤			
15	IPE⑥			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	提出物により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。		
小テスト				
平常点	50%	授業に取り組む姿勢により評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習 I		演習	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本演習では斜視検査の基礎と応用について学びます。基礎的知識を固めながら、実際に検査ができるようになること、得られた検査結果を評価し考察する力を身につけることを目的としています。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的、方法、結果の解釈について理解する。 ②正しい検査手順で行い、カルテ記載ができる。 ③各検査の違いを理解し、結果を評価することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	固視検査・眼位検査①			
2	固視検査・眼位検査②			
3	固視検査・眼位検査③			
4	固視検査・眼位検査④			
5	固視検査・眼位検査⑤			
6	眼位検査・大型弱視鏡検査①			
7	眼位検査・大型弱視鏡検査②			
8	眼位検査・大型弱視鏡検査③			
9	眼位検査・大型弱視鏡検査④			
10	眼位検査・大型弱視鏡検査⑤			
11	実技試験 (眼位検査)			
12	実技試験 (眼位検査)			
13	実技試験 (大型弱視鏡検査)			
14	実技試験 (大型弱視鏡検査)			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	毎回の授業で取り組む課題について、理解力、考察力、表現力を評価する。		
小テスト				
平常点				
その他	50%	実技試験により習熟度を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅰ（斜視）		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では斜視の定義、病因論および分類、臨床特徴について学習する。				
授業の到達目標				
①斜視の各型について臨床特徴を理解する。 ②診断に必要な検査を選択でき、また得られる結果を予想できる。 ③斜視の各型について治療方法を述べるができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視の基本的知識			
2	先天内斜視			
3	後天内斜視			
4	調節性内斜視（1）			
5	調節性内斜視（2）			
6	内斜視のまとめ			
7	間欠性外斜視（1）			
8	間欠性外斜視（2）			
9	恒常性外斜視・続発外斜視			
10	外斜視のまとめ			
11	交代性上斜位			
12	上下斜視・回旋斜視			
13	A-V型斜視			
14	微小斜視			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学 I		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視器の各部位の検査を学ぶ。				
授業の到達目標				
①視器の正常構造と生理機能を理解した上で各種眼科検査機器での検査意義が説明できる。 ②正常者の検査が正しく行える。 ③患者に対し、分かりやすい検査説明ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	角膜検査 角膜曲率半径			
2	角膜検査 角膜形状解析装置			
3	角膜検査 角膜知覚・角膜厚検査			
4	角膜検査 角膜内皮細胞検査			
5	角膜検査①【演習】			
6	角膜検査②【演習】			
7	眼球突出検査			
8	眼圧検査①			
9	眼圧検査②			
10	眼球突出検査／眼圧検査①【演習】			
11	眼球突出検査／眼圧検査②【演習】			
12	涙液検査①			
13	涙液検査②			
14	まとめ			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	演習レポートにより理解度と表現力を評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総論		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は、数多くの検査機器を用いて眼科検査を行います。本講義では、検査機器の取り扱いに関する概要、検査実施時の心得について説明し、検査機器の基本的操作の体得および、患者の気持ちや身体の状態に配慮しながら安全を意識した検査が行えるようになることを目的とする。さらに、視能検査学の学びに欠かせないレポートについて基本的な書き方を習得する。				
授業の到達目標				
①検査機器の基本的知識を説明することができる。 ②患者の心理面、身体面、安全面に配慮した検査と基本的機器操作を実施することができる。 ③レポートの書き方を理解し、課題に対して適切にレポートで表現することができる。 ④瞳孔間距離計測検査を正しく測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス（視能検査学とは） 眼科検査の経験を振り返る①			
2	眼科検査の経験を振り返る②（実習室）			
3	視能検査機器の基本的知識・安全管理・メンテナンス			
4	視能検査機器 取り扱い・操作方法①			
5	視能検査機器 取り扱い・操作方法②			
6	レポートの書き方について①			
7	レポートの書き方について②			
8	レポートの書き方について③			
9	患者・医療者の心理を考える①			
10	患者・医療者の心理を考える②			
11	レポート課題①			
12	瞳孔間距離計測検査①			
13	瞳孔間距離計測検査②			
14	レポート課題②			
15	視能検査学総論の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 他	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
【視器の解剖整理 I、II】の知識を基にして、主要な外眼部・前眼部疾患、白内障、および中途失明に結びつく緑内障での自覚症状、他覚所見、各種の検査結果が生じてくる機序が説明できることを目的としています。【視能障害学 I】で取り上げられる主要疾患の病態の理解は、視能訓練士としてレベルの高い業務遂行のための必須の知識になっていきます。				
授業の到達目標				
①外眼部・前眼部疾患、白内障および緑内障の病態が説明できる。 ②視能訓練士の行う各種の検査結果が、各疾患の診断と治療評価にどのように役立てられるのかが説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	眼症状	視力低下、視野欠損、眼痛		
2	眼科診療の手順	医療面接、眼科検査		
3	眼瞼疾患	眼瞼下垂、麦粒腫、霰粒腫		
4	涙器疾患	涙液分泌減少症・眼乾燥症		
5	結膜疾患	結膜炎		
6	角膜・強膜疾患(1)	角膜炎、角膜潰瘍		
7	〃 (2)	円錐角膜、角膜の手術、強膜炎		
8	水晶体疾患(1)	白内障、水晶体位置異常		
9	〃 (2)	白内障手術 — 術前検査		
10	〃 (3)	白内障手術 — 手術手技、合併症		
11	緑内障(1)	定義、特徴的な眼底変化		
12	〃 (2)	特徴的な視野障害、その他の検査所見		
13	〃 (3)	病型分類		
14	〃 (4)	治療方針		
15	総括	関連する国試既出問題		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
イラスト眼科 第8版	渡邊朗 他改訂	文光堂		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 実践現場（医療・福祉等）における視能訓練士の役割りとして、個別援助サービスを展開する場合、対象者の抱える多様な福祉課題を認識し、対象者を人間としてのトータルな視点を有することが必要である。2. 社会福祉は、生活上の福祉課題を明らかにし、リハビリテーション・ノーマライゼーションの理念のもと、人間が人間として相応し生活を営む権利を保障していくことである。これは老若男女を問わず人間一人ひとりが当事者性を認識することが肝要である。以上を受けて、障害者・高齢者福祉他を中心に基本的な社会福祉の視点を始め、概論・各論について現況・課題、制度とサービスについて事例を多く紹介し、実践学として社会福祉を身近なものとし、又自分自身の問題とするための内容としたい。				
授業の到達目標				
社会福祉で習得する知識をロービジョン学に発展させる。障害者・児童・高齢者などの支援に関する社会福祉の法律や制度について理解をする。				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域を取りまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもを取りまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者を取りまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる社会福祉 第11版	山縣文治・岡田忠克 編	ミネルヴァ書房		
自由記載	レジメ・講義（参考）資料を配付する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
情報科学		講義・演習	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>我々は医療専門職者として、患者の個人情報の取り扱いや電子カルテの操作など、情報を法の下で取り扱ったり管理する立場となる。</p> <p>本講座では、情報社会における様々な問題点を理解することで安全な情報管理が行えること、またワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトに触れながら、パソコンスキルの向上を目指すことを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>①情報社会における倫理を理解し、日常的な実践に繋げる。</p> <p>②情報に関する法と責任を理解する。</p> <p>③情報セキュリティを理解し、日常的な実践に繋げる。</p> <p>④各種ソフトを用い、基本的なレポート作成やデータの集計、プレゼン資料作成ができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	医療関係者と個人情報			
2	ネットにおけるマナー			
3	【パソコンスキルの修得（Word 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
4	【パソコンスキルの修得（Word 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
5	【パソコンスキルの修得（Excel 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
6	【パソコンスキルの修得（Excel 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
7	【パソコンスキルの修得（Power Point 1）】操作方法を学ぶ・課題(プレゼンテーション)の作成			
8	【パソコンスキルの修得（Power Point 2）】操作方法を学ぶ・課題(プレゼンテーション)の作成			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	パソコンに関する課題、テーマに応じたレポート等 提出物の出来具合で評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	講義時に資料を適宜配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
<p>授業の進捗状況によって変更が生じる場合があります。パソコンで作成したデータを保存できるように、USBメモリーを各自用意してください。</p>				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
心理学を身近なものとして感じ、それを自身の人生に活かしていくことを目的とする。 形のないものに興味や疑問を持ち、生きることは何かを考える機会となるような話題提供を予定している。				
授業の到達目標				
①心理学の概念や用語の意味を理解する。 ②この知識を使用して生活場面における人と心と行動について考察ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション；「心」とは？ 「心・こころ・ココロ」のイメージ 心理学の立場・考え方・研究方法			
2	知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視			
3	記憶；記憶の機能と種類、記憶テスト			
4	学習1；レスポナント条件付け、オペラント条件付け			
5	学習2；その他の学習			
6	知能；知能の定義、知能テスト			
7	パーソナリティ；パーソナリティの捉え方、パーソナリティの測定			
8	心理療法とカウンセリング1；心理カウンセリングの特徴と原理、グループワークとペアワーク(レポート)			
9	心理療法とカウンセリング2；種々のカウンセリング			
10	心理療法とカウンセリング3；森林療法の実験			
11	感情1；感情とフラストレーション、防衛機制			
12	感情2；ストレスとその対処(レポート)			
13	対人認知1；個人と集団の関係			
14	対人認知2；対人魅力			
15	全体のまとめと補足			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	基礎的な理解ができているか。		
レポート・課題	30%	書式に従っているか、内容は妥当か。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
使用しない。ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載	プリントの整理をきちんとしておくこと。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
心理学	全国歯科衛生教育協議会	医歯薬出版株式会社		
よくわかる臨床心理学	山口創	川島書店		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間関係論		講義・演習	木村 和弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療従事者は、様々な背景をもつ他者と関わり、人間関係を適切に構築する必要があります。そのために、まずは自分のことを良く知る必要があります（自分の価値観、コミュニケーションの傾向等）。そして、人の多様性を理解し、思いやりの心や他者を尊重する気持ちを持ってコミュニケーションを行うことが重要です。本科目では、コミュニケーションに関する基本的知識と態度を身につけ、協力的に人と関わる体験を通してコミュニケーションの意義と重要性を学ぶことを目的とします。ますます重要となる多職種連携のためのコミュニケーションも学びます。				
授業の到達目標				
①コミュニケーションの意義と重要性を説明できる。 ②コミュニケーションの方法と技能を説明できる。 ③相手に関心をもって人の話を聞くことができる。 ④話し手聞き手の役割に基づいて適切なコミュニケーションスキルが活用できる。 ⑤コミュニケーションにより良好な人間関係を築き、このスキルを活用しチームの一員として責任を果たせる。				
授業計画				
回	内容			
1	コミュニケーションの基本 ～良いコミュニケーションとは？専門職のコミュニケーションとは？～			
2	良いコミュニケーションのための人間行動理解 その① 人間関係の形成を考える ～愛着理論・他～			
3	良いコミュニケーションのための人間行動理解 その② 人間関係のための自己理解 ～自己覚知～			
4	信頼関係を構築するためのコミュニケーション その① 傾聴のための具体的方法 ～相談援助面接の技法～			
5	信頼関係を構築するためのコミュニケーション その② 傾聴の実際 ～事例を通して学ぶ～			
6	信頼関係を構築するためのコミュニケーション その③ プレゼンテーション ～連携の為の伝える力～			
7	対人援助職者のための人間行動理解 その① ストレスコーピング, ソーシャルサポート			
8	対人援助職者のための人間行動理解 その② 喪失・ターミナルケア～どのように接するべきか～			
9	患者様・ご家族様への接し方を考える その① 医療従事者の職業倫理から考える			
10	患者様・ご家族様への接し方を考える その② 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応①			
11	患者様・ご家族様への接し方を考える その③ 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応②			
12	患者様・ご家族様への接し方を考える その④ 相手のコミュニケーションのタイプを理解した対応			
13	患者様・ご家族様への接し方を考える その⑤ 相手の想い・ニーズを捉える～対応力のセンスを磨く～			
14	多職種連携とコミュニケーション その① 多職種連携の必要性和難しさ～連携の促進要因・阻害要因～			
15	多職種連携とコミュニケーション その② 全体のまとめ ～複雑な時代に対応するために～			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%	選択式問題と、作文問題を出題します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	毎回、個人ワーク、グループ討議を行います。取り組みの姿勢、学びについて評価します。		
その他	30%	毎回、講義の最後に「今日の学び」というミニレポートを書きます。その内容による評価です。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	毎回、テーマに応じた資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>本科目は、人間が「ヒト」ではなく、「人間」としての心身の成長と発達及び加齢について学ぶことによって、医療者として最重要事項のひとつである人間観を涵養することを目的とする。自らの人間観に基づき、患者が、ライフサイクル上のどの地点にあり、どのような心理的・身体的・社会的、そしてスピリチュアルな問題を抱えているかを理解することによって、適切なケアを提供できるようにする。</p>				
授業の到達目標				
<p>①心身の成長と発達・加齢、および各段階における問題点について理解する。 ②発達段階に応じたアプローチができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	人間発達学とは ①サルからヒトへー人類700万年の歴史 ②生涯発達、生涯学習			
2	主な発達理論 ①フロイトとエリクソン			
3	②ピアジェとボウルビィ			
4	③レビンソンとハヴィガースト			
5	ライフサイクルと発達 ①胎児期の心と身体			
6	②乳幼児期の心と身体1			
7	③乳幼児期の心と身体2			
8	④学童期の心と身体			
9	⑤思春期の心と身体			
10	⑥青年期の心と身体			
11	⑦成人期の心と身体			
12	⑧中年期危機のグループワーク			
13	⑨老年期の心と身体1			
14	⑩老年期の心と身体2			
15	⑪死			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	基礎的な事項の理解ができているか。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	グループワークへの参加と発表、および発表の評価。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
使用しない、ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
看護のための人間発達学 第5版	舟島なをみ・望月美知代		医学書院	
発達心理学概論	向田久美子		放送大学教育振興会	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
幅広い生物学の中で、医療系の学生として学ばなければならない大きな2つの柱「生物の原理」と「ヒトに関する基本」を修得する。そして、生物学への興味を深め、専門課程を理解できる基礎力をつけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能を説明できる。 2. 遺伝子とは何かを説明できる。 3. 発生のしくみを説明できる。 4. 神経のしくみを説明できる。 5. 代謝のしくみを説明できる。 6. 免疫のしくみを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	生物の基礎となる仕組みを理解できているかを評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也・塚原伸治・坪井貴司・前川文彦	化学同人		
新課程 フォトサイエンス 生物図録 改訂版		数研出版		
自由記載	講義資料、図録に沿ったプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力は眼の状態を把握する上で大切な指標であり、視力に影響する因子の1つに屈折異常があります。この授業では、視力検査や屈折検査に関する基礎知識を身につけるために「視力とその検査の理論」、「屈折異常」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力の概念を説明できる。 ②屈折異常の定義とその矯正方法を説明できる。 ③レンズ度数をパワークロスで示すことができる。 ④視力や屈折に関連する演習問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力の評価			
2	Landolt環の計算①			
3	Landolt環の計算②			
4	正視・近視			
5	遠視			
6	屈折度と遠点			
7	屈折矯正 (近視)			
8	屈折矯正 (遠視)			
9	レンズ装用時の屈折度と遠点			
10	確認テスト			
11	乱視			
12	屈折矯正 (乱視)			
13	軸転換			
14	等価球面度数			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬 他	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 他	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう視力検査屈折検査	所敬 他	金原出版		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>これまでに学修した屈折異常の知識を更に深めるとともに、調節との関係を理解することを目的とします。また、調節異常である老視の矯正を行えることを目的とします。</p>				
授業の到達目標				
<p>①不同視と不等像視の関係を説明できる。 ②調節力の計算や、遠点・近点・明視域の位置を求めることができる。 ③調節力に応じた近用眼鏡度数の選択ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（屈折異常）			
2	復習プリント（プリズム）			
3	不同視			
4	不等像視の検査			
5	屈折度と遠点			
6	調節、明視域			
7	眼鏡装用時の遠点・近点・明視域			
8	老視			
9	調節検査【演習】			
10	近見視力検査			
11	近見視力検査【演習】			
12	近用眼鏡①			
13	近用眼鏡②			
14	頂間距離補正、みかけの調節力			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬 他	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ 演習		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、クロスシリンダーを用いた乱視矯正の原理を理解し、技術を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①クロスシリンダー法の原理を説明できる。 ②正しい手順で検査を実践できる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（視力検査、球面レンズ矯正）【講義】			
2	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時【講義】			
3	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時①【演習】			
4	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時②【演習】			
5	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時③【演習】			
6	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法【講義】			
7	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法①【演習】			
8	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法②【演習】			
9	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
10	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時①【演習】			
11	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時②【演習】			
12	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時③【演習】			
13	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時④【演習】			
14	まとめ①【演習】			
15	まとめ②【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	20%	演習レポートにより理解力、表現力を評価します。		
小テスト				
平常点	20%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価します。		
その他	60%	実技試験により習熟度を評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬 他	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
理解を深めよう視力検査屈折検査	所敬 他	金原出版		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I 演習		講義・演習	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力屈折検査は眼科検査を代表する最も有名な検査です。生理光学 I で学習した内容を基に、検査の実践ができることを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力値の判定ができる。 ②球面レンズ矯正ができる。 ③結果を記載できる。 ④オートレフラクトメータを用いて眼の屈折値を測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力検査、カルテに用いる略語【講義】			
2	視力測定 (視力0.1~1.2) 【演習】			
3	視力測定 (視力0.1以下) 【演習】			
4	近視矯正の方法【講義】			
5	近視矯正 (レフなし) ①【演習】			
6	近視矯正 (レフなし) ②【演習】			
7	遠視矯正の方法【講義】			
8	遠視矯正 (レフなし) 【演習】			
9	雲霧法 (遠視、調節痙攣) 【講義】			
10	球面レンズ矯正 まとめ【講義】			
11	赤緑試験【講義】			
12	オートレフラクトメータ【演習】			
13	球面レンズ矯正 (レフあり) ①【演習】			
14	球面レンズ矯正 (レフあり) ②【演習】			
15	球面レンズ矯正 (レフあり) ③【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価します。		
その他	40%	実技試験により習熟度を評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬 他	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 他	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう視力検査屈折検査	所敬 他	金原出版		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬	金原出版		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習 I		講義・演習	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、グループワークや他学年との合同実習等により自らの知識・技術を振り返り、さらなる向上を目指すことを目的とする。				
授業の到達目標				
正しい検査手順で結果を導くことができる。 グループワークを通して前期で学習した知識を定着させることができる。 既に学習した範囲の国家試験問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	後期オリエンテーション			
2	合同実習①			
3	合同実習②			
4	合同実習の振り返り			
5	グループワーク① ポスター作成			
6	グループワーク② ポスター作成			
7	グループワーク③ ポスター作成			
8	グループワーク④ 発表			
9	実習報告会①			
10	実習報告会②			
11	実技試験練習①			
12	実技試験練習②			
13	国家試験対策①			
14	国家試験対策②			
15	1年の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	提出物、ポスター作成により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。		
小テスト				
平常点	30%	授業に取り組む姿勢、ポスター発表により評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
保育学		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的と概要				
視能訓練士は臨床の場で乳幼児やその保護者と関わり、検査や訓練を行うことがある。本科目は乳幼児の特性及び、乳幼児や保護者と関わる際の留意点等を概説するとともに、年齢に応じた対応や遊びを紹介する。また、保育における現状や課題について概説し、保護者や子どもを取り巻く社会環境の影響についても考える。				
授業の到達目標				
①乳幼児の特性について説明ができる。 ②保育を行う基本的知識とその留意点が説明できる。 ③保育における社会環境の影響について考えることができる。 ④年齢に応じた対応と環境設定を考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	保育とは何か 子ども観とは何か			
2	保育における子ども理解			
3	子どもが育つ環境の理解			
4	保育の内容・方法・計画と実践			
5	保育における健康・安全①			
6	保育における健康・安全②			
7	保育の現状と課題 現代の子育てと子育て支援			
8	子どもが親しみやすい環境の提供 演習①			
9	子どもが親しみやすい環境の提供 演習②			
10	子どもが親しみやすい環境の提供 演習③			
11	年齢に応じた対応と遊び 演習①			
12	年齢に応じた対応と遊び 演習②			
13	年齢に応じた対応と遊び 演習③			
14	年齢に応じた対応と遊び 演習④			
15	保育実習における観察と記録			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	演習課題への取り組みや姿勢をもとに評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載	必要に応じて講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
演習で作成する課題について、事前に授業で説明する材料を各自で準備すること。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育 I		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
様々なスポーツ種目の実践を通し、スポーツの楽しさを味わったり、クラスメートとの親睦を図れることを目指したい。 また、スポーツの必要性や安全面を理解し実践に活かせる態度を養成することや、健康とスポーツに関連するトピックについて講義を通して、スポーツへの興味や関心を高めさせたい。				
授業の到達目標				
スポーツをすることの意義を知り、身体を動かすことの楽しさを味わうこと、健康やスポーツについて、興味関心を深めることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	実技：球技2-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
8	実技：球技2-2			
9	実技：球技2-3			
10	実技：ニュースポーツ2-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
11	実技：ニュースポーツ2-2			
12	実技：ニュースポーツ2-3			
13	講義：健康づくりのために必要なこと1（ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等）			
14	講義：健康づくりのために必要なこと2（ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等）			
15	講義：熱中症とその予防			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進捗や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。 けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。 天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。				

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育Ⅱ		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>「保健体育Ⅰ」に続き、生涯にわたってスポーツを継続できる知識や、技術を深めることを目的とする。後期では特に、健康増進にむけた運動や、簡便な親しみやすかつ、今までに行ったことのない種目を紹介したい。講義では前期同様、スポーツに関するトピックを紹介しスポーツへの興味や関心を高めさせることや、スポーツを継続できるような知識を伝えたい。</p>				
授業の到達目標				
生涯スポーツの意義を知り、身体を動かすことの重要性を知ること、スポーツに関わるニュース等について、興味関心を深めることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：ダイエットプログラムの実際			
2	実技：ニュースポーツ1-1（フライングディスクを使った種目）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：ニュースポーツ1-3			
5	実技：ニュースポーツ1-4			
6	実技：ニュースポーツ1-5			
7	講義：ダイエットについて考える			
8	実技：球技3-1（フットサル、バスケットボール、卓球等）			
9	実技：球技3-2			
10	実技：球技3-3			
11	実技：球技3-4			
12	講義：有酸素運動のすすめ			
13	実技：健康づくり運動1-1			
14	実技：健康づくり運動1-2			
15	講義：まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進捗や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点		欠席が多い場合は、課題点（定期試験）から減点することがある。		
その他				
自由記載	けがや病気等で実技ができない場合は相談すること。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外すこと。天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習 I		実習	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 (1 単位)		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
臨地実習 I の目的は以下の通りである。 ①保育実習は、保育学での学びを実践し、年齢に応じた声掛けや発達や状況に合わせた対応を習得する。 ②病院 眼科外来見学実習は、眼科業務の主な流れを理解し、医療従事者を目指す者としての責任と自覚、マナーや協調性を身につける。				
授業の到達目標				
1. 実習生としての立場をわきまえ、行動できる。 2. 保育実習を通して乳幼児の特性や行動を観察し、発達に応じた対応ができる。 3. 病院 眼科見学を通して、視能訓練士を目指す為に今後学ぶ学問の必要性を述べるができる。				
授業計画				
回	内容			
1	保育実習 ガイダンス 実習事前評価			
2	保育実習 (3日)			
3	保育実習 振り返り			
4	病院 眼科見学 ガイダンス 実習事前評価			
5	病院 眼科見学 (2日)			
6	病院 眼科見学 振り返り			
7	病院 眼科見学 報告会資料作成			
8	病院 眼科見学 報告会			
保育実習 3日×8時間 病院実習 2日×8時間 臨地実習合計 40時間 自己学習 5時間 合計 45時間				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習評価項目により評価します。(ガイダンスで説明します)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育 I		講義・演習	石井 里奈	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
キャリア教育 I では、就職活動の前段階として、様々なワークを通して自己分析を行い、PRできる自分の強みを理解し、「なりたい自分」から「なれる自分」へと成長を促す。				
授業の到達目標				
①過去から現在の行動や経験、未来の自分への考え方を深め、自信をもって「人に語れる自分」を認識できる。 ②社会観や仕事観を深め、「社会が求める人材や能力」への意識を高め、自己の目標設定ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション キャリアとは？			
2	「理想とする人」を考える			
3	自己理解・自己分析① 今までの自分を振り返る			
4	自己理解・自己分析② 現在の自分を知る			
5	自分の強みを生かした自己PR①			
6	自分の強みを生かした自己PR②			
7	社会に求められる人物像とは			
8	前期まとめと後期に向けて			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で作成するシート記入や宿題の課題の結果をもとに評価する。		
小テスト				
平常点	30%	授業への取り組み姿勢、グループワークでの他者理解の姿勢や積極性を評価する。		
その他	40%	自己PRを作成し、授業内での発表をもとに評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
「なりたい自分」を目指す シューカツワークBOOK		noa出版		
自由記載	レジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
就職活動はもちろん、社会に出てからの「キャリア」に必要な準備のため、主体的で前向きな態度での受講を希望する。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育Ⅱ		講義・演習	石井 里奈・山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的と概要				
キャリア教育Ⅱでは、キャリア教育Ⅰを受けて、自己PRを完成させ、志望動機の作り方を理解する。面接やグループディスカッションを繰り返し、それぞれのスキルを身につける。				
到達目標				
就職活動スキルを習得する。 将来の自分のために今何をすべきか理解を深め、就職に向けての課題や目標を明確にする。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション (石井)			
2	面接に必要なビジネスマナー① (石井)			
3	面接に必要なビジネスマナー② (石井)			
4	グループディスカッション① (石井)			
5	時事問題 (石井)			
6	選考対策 (石井)			
7	応募書類作成 (山本)			
8	面接練習①（集団） (石井)			
9	面接練習②（集団） (石井)			
10	先輩インタビュー (石井)			
11	グループディスカッション② (石井)			
12	面接練習①（個人） (石井)			
13	面接練習②（個人） (石井)			
14	社会人基礎力アップ (石井)			
15	まとめ (石井)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で作成するシート記入や宿題の課題の結果をもとに評価する。		
小テスト				
平常点	30%	授業への取り組み姿勢、グループワークでの他者理解の姿勢や積極性を評価する。		
その他	40%	面接、グループディスカッションなど実践での内容を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
「なりたい自分」を目指す シューカツワークBOOK 第2版		noa出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
チーム医療論		講義	鈴木 則章・荒木 渚・岩井 克磨・林田 健 酒巻 直美・嘉納 綾・平口 昌広・八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
良質な医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠である。本科目では専門職種を理解し、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし、積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割などチーム医療に関する基本的知識を習得する。				
授業の到達目標				
①専門職種を理解する。 ②医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割を理解する。 ③1つの症例に対して各職種から見た視点を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	チーム医療とは、症例に対する視能訓練士の関わり			
2	症例に対する診療放射線技師の関わり			
3	症例に対する臨床工学技士の関わり			
4	症例に対する理学療法士の関わり			
5	症例に対する作業療法士の関わり			
6	症例に対する言語聴覚士の関わり			
7	症例に対する歯科衛生士の関わり			
8	症例に対するその他の医療職種の関わり			
成績の評価方法及び基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション医学		講義	嘉納 綾・酒巻 直美・今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
この科目では障害を有しながらその人らしい生活復帰を目的とするリハビリテーションの基本的知識を身につけることを目的とします。				
授業の到達目標				
①リハビリテーションの概念や定義を説明することができる。 ②障害に対して正しく理解できる。 ③各種リハビリテーション関連職種の役割を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	リハビリテーションの理念			
2	リハビリテーション関連職種の役割（作業療法士）			
3	作業療法士が行うリハビリテーション			
4	リハビリテーション関連職種の役割（理学療法士）			
5	理学療法士が行うリハビリテーション			
6	車いすの操作、介助と誘導			
7	リハビリテーション関連職種の役割（言語聴覚士）			
8	言語聴覚士が行うリハビリテーション			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
ロービジョン学		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
ロービジョンとは視覚障害の為に日常生活において何らかの支障をきたす状態をいう。本科目では視覚障害の定義や原因など基礎的な知識及び、ロービジョンケアに必要な視機能評価、視覚補助具の選定、社会福祉制度について学ぶ。				
授業の到達目標				
①ロービジョンケアに対する視能訓練士の役割を理解する。 ②ロービジョンに関わる社会福祉制度を理解する。 ③ロービジョン者の視機能評価を行うことができる。 ④視覚補助具の特色を述べることもできると共に、選定が出来る。				
授業計画				
回	内容			
1	障がいの定義 ロービジョン者の見え方を知る			
2	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ①視力の評価			
3	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ②視野の評価			
4	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ③重複障害の評価 その他障害の基準（小テスト）			
5	ロービジョンケアの概念 ロービジョン者数の推移とその原因 社会福祉理念とリハビリテーションの概念			
6	視覚補助具 光学的補助具の倍率①			
7	視覚補助具 光学的補助具の倍率②			
8	視覚補助具 手持ち式拡大鏡			
9	視覚補助具 卓上式拡大鏡			
10	視覚補助具 単眼鏡			
11	遮光眼鏡			
12	非光学的補助具 補装具・日常生活用具			
13	ロービジョンに関する計算問題			
14	まとめ			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		理解度を確認するための小テストを行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
新しいロービジョンケア	山本修一	メジカルビュー社		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編	医学書院		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
医用英語		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この科目では英語での眼科に関わる専門用語を習得すること、眼科に関わる英語での論文や文献を読み解くことでさらに専門知識を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
①英語での眼科専門用語を暗記し、カルテに記載している内容を理解することが出来る。 ②英語の論文や文献を読み解くことで専門知識を深める。				
授業計画				
回	内容			
1	眼科専門用語(1)			
2	眼科専門用語(2)			
3	眼科専門用語(3)			
4	眼科専門用語(4)			
5	眼科専門用語(5)			
6	眼科専門用語(6)			
7	眼科専門用語(7)			
8	論文文献読解			
成績の評価方法及び基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
英和・和英 眼科辞典	大鹿哲郎	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
画像診断学		講義	谷口 誠典・渡部 暁子・和 里桜	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>疾病の診断や治療の評価時に重要となる画像検査が近年目覚ましく進歩しています。眼科でよく実施されるそれら画像検査について講義と演習を行います。</p>				
授業の到達目標				
<p>医療現場で実際に撮影する事の多い画像検査の習得を目的とする。また以下を到達目標とする。 ①検査の原理と目的を理解する。 ②画像の読影ができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	OCT（光干渉断層計）①			（谷口）
2	OCT（光干渉断層計）②			（谷口）
3	蛍光眼底造影検査①（FAG）			（谷口）
4	蛍光眼底造影検査②（IA）、自発蛍光眼底造影			（谷口）
5	細隙灯顕微鏡、フォトスリット			（谷口）
6	MRI、CT			（谷口）
7	超音波検査			（渡部）
8	眼軸長検査			（渡部）
9	眼内レンズ度数計算			（渡部）
10	視覚障害等級判定（視野の評価法）			（渡部）
11	画像検査演習①			（谷口・渡部）
12	画像検査演習②			（谷口・渡部）
13	画像検査演習③			（谷口・渡部）
14	画像検査演習④			（谷口・渡部）
15	角膜屈折矯正手術（あさざり病院 視能訓練士）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
眼薬理学		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>視能訓練士は点眼薬を用いて眼科検査をすることがあります。また、様々な薬物治療を受けている患者と接することになります。本科目では、臨床現場からの視点で、視能訓練士として、さらには医療従事者として必要な薬物に関連する知識を修得することを目的としています。講義は、関連する国家試験既出問題も踏まえて作成したプリント資料に基づいて行います。</p>				
授業の到達目標				
<p>①点眼薬の投与方法、吸収経路、副作用が説明できる。 ②眼科検査で使用される自律神経作動薬の薬理作用、使用方法が説明できる。 ③代表的な眼科疾患治療薬、全身疾患治療薬が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイドダンス 「くすり」の話			
2	創薬とジェネリック医薬品			
3	薬が効くメカニズムと投与方法			
4	眼科局所投与 点眼薬・眼軟膏			
5	点眼法			
6	自律神経と瞳孔作動薬			
7	その他の自律神経薬と抗緑内障薬			
8	小括(1) 国家試験既出問題			
9	抗菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン			
10	抗炎症薬、ほか			
11	その他の眼科治療薬(1) 注射薬			
12	その他の眼科治療薬(2) 点眼薬、検査薬			
13	主な全身疾患治療薬			
14	薬物中毒・薬物の眼科的副作用			
15	小括(2) 国家試験既出問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
点眼薬 クリニカルブック 第2版	庄司純 編著	金原出版		
点眼薬の選び方 第2版	石岡みさき 著	日本医事新報社		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅱ		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
基礎視能矯正学Ⅱでは斜視の基本的知識と輻湊・開散・AC/A比について学びます。輻湊・開散・AC/A比のメカニズムを理解した上で、視能矯正学・視能検査学に発展できるよう、実際に測定データを求め、そのデータの分析とレポート作成ができる能力を養います。				
授業の到達目標				
①斜視の基本的知識を習得し、斜視検査の意義を理解する。 ②輻湊開散AC/A比の知識を理解するとともにデータを検証し、考察を述べることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視の定義 斜視の病因論			
2	斜視の分類			
3	斜視の診断 輻湊・開散の定義・種類			
4	輻湊・開散の発達・神経支配と中枢 輻湊・開散の単位			
5	輻湊・開散の検査 輻湊近点 融像性輻湊検査			
6	輻湊・開散の検査 調節性輻湊 AC/A比			
7	AC/A比計算問題 演習			
8	輻湊・開散の障害 AC/A比の障害			
9	輻湊・開散の検査①輻湊近点			
10	輻湊・開散の検査②融像性輻湊			
11	輻湊・開散の検査③調節性輻湊 AC/A比			
12	輻湊・開散の検査④調節性輻湊 AC/A比			
13	輻湊・開散の検査⑤近接性輻湊			
14	輻湊・開散の検査⑥データ分析			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題	10%	課題に対するレポートの評価基準については、別途授業で説明する。		
小テスト		理解度を確認するための小テストを行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
公衆衛生学		講義	小野 一男・井村 聡子	
時間数(単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では生活習慣病、環境問題および人口構造の変化による社会的な問題など現在の公衆衛生の課題について説明する。その中で、公衆衛生の基本的な考え方であるプライマリヘルスケア (PHC) やヘルスプロモーション (HP) の概念を学ぶと共に、地域社会住民や施設集団におけるセルフケアの重要性と医療従事者の役割を考察する。 また、医療従事者にとって重要な感染症を重点的に学習し、感染症の基礎知識および感染制御の技術の習得、感染症に対して速やかに専門的判断と対応ができるよう能力を養う。				
授業の到達目標				
現在の公衆衛生の問題について、理解し、自身の意見を述べるようになる。 また、医療従事者としての感染症の知識および予防対策をしっかりと習得できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	健康の概念と公衆衛生学			
2	人口統計			
3	保健統計			
4	地域保健			
5	疫学			
6	母子保健・学校保健			
7	成人保健			
8	高齢者保健			
9	感染症 (1) 基礎知識			
10	感染症 (2) 感染予防とその対策			
11	感染症 (3) 主な病原微生物			
12	環境保健			
13	精神保健・産業保健			
14	社会保障と社会福祉			
15	国際保健			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	30%			
自由記載		評価は筆記試験 (70%) およびその他【①発表、②課題提出、③受講態度】 (30%) により評価を行う。筆記試験は得られた得点で評価する。 その他は①発表は授業中に実施する発表の内容、②課題提出はレポートなどの提出物の内容、③受講態度は、私語やスマートホンなどの機器類の使用に関し悪いと判断した場合に評価を下げる。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第15版	松本秀明		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習		演習	荒木 渚・谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
複数の眼科一般検査を一連の流れで行い、基本の検査原理と手順に則った行動を系統だてて実行できることを目標とする。				
授業の到達目標				
①複数の検査を実施する順番を考えることができる。 ②患者の安全と感染防止に配慮した誘導・検査を実施することができる。 ③一連の検査結果を系統だてて考察することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	レフケラ、NCTの復習 講義	16	【前回値矯正】実習④	
2	レフ値参考の視力検査 講義	17	【KBチェックと視力検査】実習①	
3	【NCT、レフ値参考の視力検査】実習①	18	【KBチェックと視力検査】実習②	
4	【NCT、レフ値参考の視力検査】実習②	19	【KBチェックと視力検査】実習③	
5	【NCT、レフ値参考の視力検査】実習③	20	視力屈折検査まとめ	
6	【NCT、レフ値参考の視力検査】実習④	21	無散瞳眼底カメラ 講義	
7	クロスシリンダの焦線図示プリント 講義	22	【無散瞳カメラ、視力検査の実習】	
8	クロスシリンダの焦線図示 過矯正Verプリント 講義	23	【無散瞳カメラ、視力検査の実習】	
9	【レフ値参考の視力検査 わざと過矯正スタート】実習①	24	【無散瞳カメラ、視力検査の実習】	
10	【レフ値参考の視力検査 わざと過矯正スタート】実習②	25	【無散瞳カメラ、視力検査の実習】	
11	【レフ値参考の視力検査 わざと過矯正スタート】実習③	26	【無散瞳カメラ、視力検査の実習】	
12	前回値矯正の手順、クロス simpleVerプリント 講義	27	実技試験	
13	【前回値矯正】実習①	28	実技試験	
14	【前回値矯正】実習②	29	実技試験	
15	【前回値矯正】実習③	30	口頭試問	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実技試験と口頭試問を行い、その合計で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学各論 I		講義	徳山 深里	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では斜視の定義、病因論および分類、臨床特徴について学習する。				
授業の到達目標				
斜視の各型について臨床特徴を理解して、必要な検査を選択でき、また得られる結果を予想できる。 斜視の各型について鑑別診断や治療法がわかる。				
授業計画				
回	内容			
1	先天内斜視			
2	後天内斜視(1)			
3	後天内斜視(2)			
4	調節性内斜視 (1)			
5	調節性内斜視 (2)			
6	内斜視まとめ			
7	間欠性外斜視 (1)			
8	間欠性外斜視 (2)			
9	恒常性外斜視、続発外斜視			
10	外斜視まとめ			
11	交代性上斜位・上下斜視			
12	A-V型斜視			
13	微小斜視(1)			
14	微小斜視(2)			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学 I		講義	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
斜視手術は、視能訓練士による術前の検査によって決定される。この講義では、斜視手術の原理を理解することで術前術後の検査の必要性の理解と斜視型別臨床所見の振り返りができるよう講義を構成している。				
授業の到達目標				
①斜視型に応じて術式を選択ができる。 ②視能訓練士として斜視手術の原理を知り、術後術前検査の必要性を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視手術の適応と禁忌・時期と目標			
2	斜視手術術式①			
3	斜視手術術式②			
4	手術方針・量定			
5	斜視型別の手術1			
6	斜視型別の手術2			
7	斜視型別の手術3			
8	術前術後検査・合併症 確認テスト			
9	斜視手術の実際			
10	まとめ 斜視手術適応と組み合わせ			
11	まとめ 斜視手術による合併症			
12	まとめ AV型・回旋			
13	まとめ 術式適応・術式			
14	まとめ 臨床問題			
15	まとめ 定期試験対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅱ		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>本講義では、これまでに習得した両眼視機能や斜視の知識を基に、斜視視能訓練について知り、理解できるようになることを目的とする。 症例の検査結果・病態評価・斜視型別から必要な訓練法を選択できるようになることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>斜視視能訓練の原理・方法を理解し、説明することができる。 斜視視能訓練の対象を理解し、各々に必要な訓練方法を述べることができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視能矯正・訓練の定義 視能矯正訓練の目的と目標 視能矯正・訓練の原則			
2	視能矯正・訓練の種類 インフォームドコンセント 適応と予後に影響する因子 期間と中止時期 効果の判定と評価			
3	視能矯正・訓練の実際 単眼固視訓練 抑制除去訓練①			
4	視能矯正・訓練の実際 抑制除去訓練②			
5	視能矯正・訓練の実際 網膜対応異常の矯正訓練			
6	視能矯正・訓練の実際 融像訓練			
7	視能矯正・訓練の実際 輻湊訓練 眼球運動訓練			
8	確認テスト 振り返り			
9	訓練方法演習			
10	訓練方法演習			
11	試験対策 抑制除去訓練			
12	試験対策 網膜対応異常訓練 融像訓練			
13	試験対策 訓練法 訓練の適応			
14	試験対策 臨床問題			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
視能訓練学Ⅲ		講義・演習		山本 雅美・谷口 誠典・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数		年次	
60 時間（2 単位）		30 回		2 年次	
				後期	
授業の目的・概要					
視能訓練士は眼科検査のほぼ全般を担当するが、流れ作業の検査では質の高い視能矯正を提供することはできません。本科目では、患者の主訴や病歴から疾患を想起し、患者のニーズに応じた視能検査の立案と実施、評価ができるよう、症例データを基に課題を進めていきます。					
授業の到達目標					
①症例の病態分析と評価が出来る。 ②患者の不安な気持ちや状態に配慮ができる。 ③患者が把握しやすい説明ができる。 ④病態分析により適切な検査が行える。					
授業計画					
回	内容		回	内容	
1	POSによる視能矯正		16	不同視弱視	
2	医療面接		17	不同視弱視 【演習】	
3	先天性上斜筋麻痺		18	外転神経麻痺	
4	先天性上斜筋麻痺		19	外転神経麻痺	
5	先天性上斜筋麻痺 【演習】		20	外転神経麻痺 【演習】	
6	間欠性外斜視		21	滑車神経麻痺	
7	間欠性外斜視		22	滑車神経麻痺	
8	間欠性外斜視 【演習】		23	滑車神経麻痺 【演習】	
9	屈折性調節性内斜視		24	医療面接・OSCEの練習（1）	
10	屈折性調節性内斜視		25	医療面接・OSCEの練習（2）	
11	屈折性調節性内斜視 【演習】		26	医療面接・OSCEの練習（3）	
12	小児の視能評価		27	OSCE（客観的臨床能力試験）	
13	小児の視能評価		28	OSCE（客観的臨床能力試験）	
14	小児の視能評価 【演習】		29	OSCE（客観的臨床能力試験）	
15	不同視弱視		30	総括	
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	30%				
レポート・課題					
小テスト					
平常点					
その他	70%	OSCEによる評価			
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名		出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学	岩山暁美 他編		医学書院		
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名		出版社名		
なし					
自由記載					
備考					

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学概論		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士法および関係法規を学ぶことにより、視能訓練士（医療従事者）としての心得、責任、役割を理解することを目的とする。また、視能訓練士（医療従事者）として知っておくべき医療安全対策、安全管理と救急対応・処置について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
視能訓練士法に関わる視能訓練士の具体的な業務を述べることができる。 医療従事者として必要な関係法規の内容を理解し、述べるができる。 視能訓練士として必要な医療安全対策について理解し、説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・視能訓練士法・視能訓練士の業務			
2	視能訓練士法・その他眼科医療に関する職種と業務内容、関係法規			
3	その他の関係法規①			
4	その他の関係法規②			
5	医療保険制度・診療録と医療記録			
6	医療安全対策①			
7	医療安全対策②			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学Ⅲ		講義・演習	徳山 深里・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である。視能検査の原理と手技及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。年齢や症例に応じた検査法の選択と他の検査法との比較と考察が行えるよう、具体症例を挙げて講義を進める。				
授業の到達目標				
各視能検査の意義と原理を説明することができる。 正しい検査手順で検査を行うことができる。 検査結果より評価及び考察が出来る。 年齢や症例に適した検査方法を選択し、他の検査法との比較と考察が出来る。				
授業計画				
回	内容			
1	立体視検査	16	眼球運動検査 演習②	
2	立体視検査 演習①	17	眼球運動検査 演習③	
3	立体視検査 演習②	18	眼球運動検査 演習④	
4	立体視検査 演習③	19	演習課題 眼球運動検査① 両眼視機能検査実技試験	
5	網膜対応検査①	20	演習課題 眼球運動検査② 両眼視機能検査実技試験	
6	網膜対応検査②	21	演習課題 眼球運動検査③ 両眼視機能検査実技試験	
7	網膜対応検査 演習①	22	演習課題 眼球運動検査④ 両眼視機能検査実技試験	
8	網膜対応検査 演習②	23	演習課題 眼球運動検査⑤ 両眼視機能検査実技試験	
9	網膜対応検査 演習③	24	演習課題・両眼視機能検査実技試験 まとめ	
10	両眼視機能検査 まとめ	25	演習課題 両眼視機能検査① 眼球運動検査実技試験	
11	眼球運動検査 9方向むき眼位	26	演習課題 両眼視機能検査② 眼球運動検査実技試験	
12	眼球運動検査 Hess-Lancasterテスト	27	演習課題 両眼視機能検査③ 眼球運動検査実技試験	
13	眼球運動検査 牽引試験 注視野	28	演習課題 両眼視機能検査④ 眼球運動検査実技試験	
14	眼性頭位異常の検査	29	演習課題 両眼視機能検査⑤ 眼球運動検査実技試験	
15	眼球運動検査 演習①	30	演習課題・眼球運動検査実技試験 まとめ	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	10%	各実習につきレポート提出をし、理解度と考察力などを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他	30%	実技試験により習熟度を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学Ⅳ		講義・演習	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
各種検査の原理と実践を理解する。講義の後に実習を行います。				
授業の到達目標				
電気生理学検査と特殊な視力検査を習得することを目的とし、下記を到達目標と設定します。 ①電気生理学検査の原理と波形を理解できる。 ②中心CFF検査と特殊な視力検査について目的を理解し、検査を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	電気生理学の基礎 原子の構造、電気生理学検査の用語			
2	波形とは 網膜電図(正常波形)			
3	網膜電図(異常波形)、練習問題1			
4	特殊な網膜電図、国試過去問(ERG)、動画鑑賞(ERG)			
5	視覚誘発電位①			
6	視覚誘発電位②			
7	眼球電図 EOG 【網膜色素上皮細胞の機能評価】			
8	眼球電図 EOG 【眼球運動の解析と記録】、外眼筋筋電図 EMG			
9	中心フリッカ			
10	ピンホール。ラ環の計算問題の復習(視力と最小視角)			
11	ラ環の基本計算問題の復習。ETDRSチャートの使用方法			
12	logMAR値の計算			
13	コントラスト視力			
14	中心CFF、コントラスト視力 【実習①】			
15	中心CFF、コントラスト視力 【実習②】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト	0%	自己の理解度を確認する為、分野毎に小テストを実施する。小テストは評価基準には入れない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総合演習		講義・演習	谷口 誠典・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義での1つ目の目的は学童期以降の小児や成人に対する眼鏡合わせの理論を学ぶこと。2つ目は散瞳型眼底カメラの実習を行うことである。特に眼鏡合わせについては臨床に出た時に苦手意識をもつ視能訓練士が多い検査である。なぜなら患者のこれまでの眼鏡の装用経験の有無やKB度数、装用期間、患者の視生活の状況、見え方に対する感覚順応力の違いが全て患者一人ひとり異なるからである。この講義では臨床に出た際に役立つ知識を伝えていきます。				
授業の到達目標				
①散瞳型眼底カメラで後極部撮影ができる。 ②眼鏡合わせに必要な知識を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	眼科一般検査総復習①	16	成人の眼鏡合わせ（乱視）/ 散瞳カメラ（周辺）③'【実習】	
2	眼科一般検査総復習②	17	成人の眼鏡合わせ（不同視）/ 散瞳カメラ（周辺）③'【実習】	
3	眼科一般検査総復習③	18	実験近視	
4	眼科一般検査総復習④	19	学校健診	
5	医療面接	20	小児の弱視治療用眼鏡等、三歳児健康診査	
6	成人の眼鏡合わせ（近視）/ 散瞳カメラ（後極）①【実習】	21	眼鏡フレームとフィッティング	
7	成人の眼鏡合わせ（近視）/ 散瞳カメラ（後極）①【実習】	22	多焦点レンズ①（計算問題 復習）	
8	成人の眼鏡合わせ（近視）/ 散瞳カメラ（後極）②【実習】	23	多焦点レンズ②（二重焦点と累進 遠近両用）	
9	成人の眼鏡合わせ（近視）/ 散瞳カメラ（後極）②【実習】	24	多焦点レンズ③（累進 中近両用、近近両用）	
10	成人の眼鏡合わせ（遠視）/ 散瞳カメラ（周辺）①'【実習】	25	多焦点レンズ④（練習問題、国試過去問）	
11	成人の眼鏡合わせ（遠視）/ 散瞳カメラ（周辺）①'【実習】	26	プリズム（計算問題 復習）	
12	成人の眼鏡合わせ（遠視）/ 散瞳カメラ（周辺）②'【実習】	27	プリズム（計算問題 復習）	
13	成人の眼鏡合わせ（遠視）/ 散瞳カメラ（周辺）②'【実習】	28	プリズム眼鏡合わせ（組み込み式、Fresnel）	
14	成人の眼鏡合わせ（乱視）/ 散瞳カメラ（周辺）③【実習】	29	特殊な眼鏡合わせ（カラー・ミラーレンズ、水中ゴーグル等）	
15	成人の眼鏡合わせ（不同視）/ 散瞳カメラ（周辺）③【実習】	30	まとめプリント	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
助手：上村 直久				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本科目では主要な後眼部疾患、全身疾患に合併する眼症状などについて病態生理からわかりやすく説明します。これらの病態生理をよく理解することで、眼科疾患の診断と治療評価のための眼科検査の意義が明確になり、よりレベルの高い視能訓練士としての業務が行えるようになることを目的としています。講義は、教科書を参照しながら、関連する国家試験既出問題も踏まえて作成したプリント資料に基づいて行います。</p>				
授業の到達目標				
<p>①眼球の解剖・生理と関連付けて、後眼部疾患の病態生理が理解できる。 ②後眼部疾患の診断や治療評価に、視能訓練士が行った検査結果がどのように役立てられるのかが理解できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ぶどう膜疾患（1） ぶどう膜の解剖・生理、先天異常、ぶどう膜炎（総論）			
2	ぶどう膜疾患（2） ぶどう膜炎（各論）、腫瘍			
3	網膜硝子体疾患（1） 網膜・硝子体の解剖・生理、主な眼底変化			
4	網膜硝子体疾患（2） 網膜循環障害（網膜中心動脈脈閉塞症、ほか）			
5	網膜硝子体疾患（3） 黄斑部疾患（加齢黄斑変性、ほか）			
6	網膜硝子体疾患（4） 夜盲性疾患、小児網膜疾患			
7	網膜硝子体疾患（5） 網膜剥離、硝子体疾患			
8	網膜硝子体疾患（6） 治療法（光凝固、硝子体手術、硝子体注射）			
9	眼窩疾患 甲状腺眼症、眼窩吹き抜け骨折、ほか			
10	全身疾患と眼（1） 循環器系疾患、糖尿病、ほか			
11	全身疾患と眼（2） 膠原病と近縁疾患、感染症、ほか			
12	眼外傷 鈍的眼外傷、外傷性視神経症、ほか			
13	その他の眼疾患（1） 神経眼科疾患			
14	その他の眼疾患（2） 色覚異常、屈折異常、救急疾患、ほか			
15	総括 国家試験 既出問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
病気がみえる vol.12 眼科	医学情報学研究所	メディックメディア		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学Ⅲ		講義	宮崎 茂雄・田淵 昭雄・明石 梓	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能障害学Ⅰ、Ⅱで習得した知識をさらに深めて、視能訓練士として必要な臨床能力を養うことを目的とします。本講義は三部構成で、第一部では患者さんの訴えから病態を把握し、検査と診断に至る過程が理解できることを目的とします。第二部では「小児眼科」として、成人とは異なる小児期にみられやすい眼疾患について、第三部では現在の眼科臨床のトピックスについての理解を深めることを目的とします。				
授業の到達目標				
① 患者の訴えから鑑別診断、必要な検査を挙げることができる。 ② 小児期に特徴的な眼科疾患の病態が説明できる。 ③ 眼科臨床の先端領域について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	主要眼疾患・症候群、眼科救急疾患			(宮崎茂雄)
2	主要眼症状			(")
3	関連する国試一般問題 (1)			(")
4	" (2)			(")
5	臨床問題による症例検討 (1)			(")
6	" (2)			(")
7	" (3)			(")
8	" (4)			(")
9	小児眼科 (1) 視器の発生と形態的・機能的発達			(田淵昭雄)
10	" (2) 眼窩・涙器 眼瞼・結膜 角膜 緑内障			(")
11	" (3) 水晶体 硝子体 脈絡膜			(")
12	" (4) 網膜 屈折異常			(")
13	" (5) 視神経・視路・視覚連合野			(")
14	" (6) 眼球運動			(")
15	最新の眼科治療			(明石梓)
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科 I		講義	谷口 誠典	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
60 時間 (2 単位)		30 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患について、脳神経の走行や血管などできるだけ多くのイラストを描きながら、複雑な神経や血管の走行をわかりやすく解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①核・核下性疾患の病態生理を理解する。 ②分野毎に国家試験過去問題を解くことで、疾患の重要項目を掴むことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	神経の構造と機能① (中枢神経系と末梢神経系)		16	外転神経麻痺
2	神経の構造と機能② (ニューロンについて)		17	複合筋麻痺、Fisher、Wernicke症候群
3	脱分極		18	脳卒中、片頭痛。ホルモンとは (甲状腺ホルモン)
4	伝導と伝達 (練習問題2、小テスト1)		19	眼球突出 (Basedow病)
5	対光反射		20	視路疾患① (頭蓋内疾患)
6	小テスト1 (再度)、細胞小器官 (核・ミトコンドリア)、国試過去問		21	視路疾患② (特殊な視野)
7	うっ血乳頭		22	視路疾患③ (高次脳障害)、白血球について
8	視神経炎、RAPD		23	免疫とは (体液性免疫と抗体)
9	視神経症 (虚血性、外傷性など)		24	重症筋無力症
10	練習問題		25	慢性進行性外眼筋麻痺
11	脳神経 (Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ) の解剖整理、動眼神経麻痺①		26	前期の総復習①
12	動眼神経麻痺②		27	前期の総復習②、参考動画の鑑賞
13	滑車神経麻痺、頭位異常とParksの3steps		28	前期の総復習③
14	" (資料7答え合わせ、資料7-2)		29	前期の総復習④
15	滑車神経麻痺、先天性代償不全性IV麻痺		30	前期の総復習⑤
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト	0%	自己の理解度を確認する為、分野毎に小テストを実施する。小テストは評価基準には入れない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
病態生理を理解することは、診察に役立つ検査を実践することに繋がります。頑張ってください。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科Ⅱ		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患、核上性疾患、眼振について、脳神経の走行や血管などできるだけ多くのイラストを描きながら、複雑な神経や血管の走行をわかりやすく解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①各単元ごとに配布する練習問題で要点を理解できる。 ②国家試験過去問題を解くことができ、国家試験問題の出題傾向を掴む。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視特殊型（Duane症候群、Brown症候群）			
2	斜視特殊型（固定斜視、眼窩底骨折、sagging eye syndrome、generalfibrosis syndrome）			
3	眼瞼・顔面表情筋の障害			
4	自律神経、脱神経過敏性の獲得、light-near dissociation			
5	瞳孔疾患（Horner症候群、瞳孔緊張症）			
6	瞳孔疾患（動眼神経麻痺、Argyll Robertson症候群、その他）			
7	眼球運動の種類、PPRF症候群、MLF症候群、One and a half症候群			
8	Parinaud症候群、double elevator palsy			
9	輻輳、開散の障害			
10	眼振、波形分類、生理的眼振			
11	先天眼振と治療（非観血療法）、潜伏眼振			
12	眼振阻止症候群			
13	後天眼振、眼振の記載、非眼振性異常眼球運動、眼振まとめ			
14	総まとめのプリント①（一問一答、国試過去問40～47回）			
15	総まとめのプリント②（国試過去問）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト	0%	分野ごとに小テストを実施するが、評価には含まない。自己理解度を確認するために実施する。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神衛生学		講義・演習	木川 恵理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神衛生の基礎として、様々な精神疾患への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
精神疾患に関するメンタルヘルスの知識を深め、必要に応じてセルフケアが行えるよう演習を通して学ぶ。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 精神衛生とストレスマネジメント（ストレス関連疾患）			
2	うつ病と双極性障害（内因性精神疾患）			
3	統合失調症（内因性精神疾患）			
4	対人関係とコミュニケーション			
5	子どもの発達障害			
6	大人の発達障害			
7	認知症（器質性精神疾患）			
8	子どもの不安障害			
9	大人の不安障害			
10	解離性障害・身体症状症			
11	トラウマ・PTSD			
12	愛着障害・パーソナリティ障害			
13	強迫性障害・依存症			
14	摂食障害			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	精神衛生の授業で扱った概要の理解度を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	レジュメ、講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>内科的疾患をはじめとする全身的背景は眼科疾患の発症とその治療に影響を及ぼします。特に本邦のような超高齢社会において質の高い眼科臨床をおこなうためには、多彩な全身的背景をよく理解しておくことが求められます。本科目では、頻度の高い内科的、全身の疾患の理解を深めることを目的とします。</p> <p>配布するプリント資料に基づいて講義を行い、理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに施行します。</p>				
授業の到達目標				
<p>① 病態の基礎的事項が説明できる。</p> <p>② 頻度の高い内科的、全身の疾患が説明できる。</p> <p>③ 眼病変を伴う全身の疾患が説明できる。</p> <p>④ 高齢者にみられやすい症状、疾患が理解できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論 — 主要症候、病態の基礎			
2	各論 — 感覚器疾患、脳・神経疾患			
3	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患			
4	代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、血液疾患			
5	アレルギー疾患、膠原病・自己免疫疾患、感染症			
6	精神神経系疾患、運動器系疾患、悪性腫瘍、小児科疾患、皮膚科疾患			
7	老年期疾患、アイフレイル			
8	総括 — 関連する国試既出問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 改訂7版	北村諭		中外医学社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学Ⅱ		講義	鈴木 則章	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
一般臨床全般の代表的疾患の中から外科系、感覚器系、脳・神経系、運動器系、小児科系、老年期疾患系疾患の病態を概説する。臨床症状と疾患のメカニズム、また医療場面で利用される基本的な医療機器、基本的医療行為を紹介する。				
授業の到達目標				
一般臨床症状についての理解を深め、主要疾患の病態生理が理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	看護師の歴史 保助看法 眼科看護師の仕事			
2	眼科を受診する患者の特徴とは (グループワーク) 特に多い高齢者の特徴			
3	医療安全 危険予知トレーニング (KYT) のグループワーク			
4	感染予防 (1) 感染とは 感染経路 標準予防策 (スタンダードプリコーション)			
5	感染予防 (2) 眼科外来での感染予防とは 手洗い実習			
6	バイタルサイン (1) バイタルサインとは 体温、呼吸のしくみ			
7	バイタルサイン (2) 脈拍、血圧のしくみ ショックとは			
8	救急時の看護 心肺蘇生について 全体を通じてのまとめ 医療者の接遇			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	80%	設定した内容に対し授業を通じ学び、感じた事を自身の意見として述べていること。		
小テスト				
平常点	20%	授業態度。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	必要に応じ講義資料 (プリント) を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	永富 陽子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
自己理解と他者理解を深めながら、臨床現場で役立つ幅広い知識の獲得を目的とする。講義では体験やディスカッションを多く取り入れ、考える機会を提供したい。				
授業の到達目標				
①臨床心理学の基礎的概念について説明できる。②さまざまな心理アセスメント技法の概要を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 臨床心理学とは			
2	アセスメント① 心理面接			
3	アセスメント② 心理検査 (質問紙法・投影法)			
4	アセスメント③ 心理検査 (描画法・知能検査)			
5	アセスメント④ 心理検査 (乳幼児・高齢者向)			
6	心理療法① 来談者中心療法・遊戯療法			
7	心理療法② 行動療法			
8	心理療法③ 認知行動療法			
9	心理療法④ 日本発祥の療法・精神分析、マインドフルネス			
10	小児心理 小児期・思春期・青年期			
11	医療領域① 視能障害児 (者) ・病院における小児の心理			
12	医療領域② 家族・高齢者の心理			
13	働く現場 ストレスマネジメント			
14	臨床心理学の活用			
15	まとめと解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	臨床心理学の基礎的概念を説明できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	50%	課題への取り組み、提出物をもとに評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	必要に応じて資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる臨床心理学 改訂新版	下山晴彦	ミネルヴァ書房		
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床生理学概論		講義	白川 卓・三好 真琴	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
疾患を客観的に評価する手段として臨床検査データは重要な役割を果たします。現代の医療は臨床検査のデータがなければ成り立たないといっても過言ではありません。本講義では多くの臨床検査の中から日常的に実施される検査項目を中心に解説し、将来医療機関で活躍するときに役立つ内容となっています。さらに毎回データ解読テストを実施することで検査データの解釈が可能となるよう構成しています。				
授業の到達目標				
基本的な臨床検査のデータを判読し、患者の状態を客観的に把握できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床検査の概要と臨床検査データの読み方の基本			
2	一般検査（尿・糞便などを用いた検査）			
3	血液検査-1（血球数算定、貧血検査）	（データ解読テスト1）	白川担当	
4	血液検査-2（白血球の検査、血液凝固検査）			
5	臨床化学検査-1（血清タンパク、腎機能検査）	（データ解読テスト2）	白川担当	
6	臨床化学検査-2（血清酵素検査、心筋マーカー、肝機能検査）			
7	臨床化学検査-3（糖代謝検査、脂質代謝検査、電解質検査）	（データ解読テスト3）	白川担当	
8	免疫学的検査-1（腫瘍マーカー、ホルモン、炎症マーカー検査）			
9	免疫学的検査-2（肝炎ウイルス検査、HIV検査、輸血検査）	（データ解読テスト4）	白川担当	
10	微生物検査（院内感染、スタンダードプリコーション、遺伝子検査）			
11	循環器系の検査			
12	呼吸器系の検査			
13	神経・筋機能検査			
14	感覚機能検査			
15	画像診断検査			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	検査データの基本的な見方・考え方について理解できているかを評価します。（白川25点、三好35点）		
レポート・課題				
小テスト	40%	前週までに学習した検査データの読み方について毎回小テストを行います。（白川40点）		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
看護に活かす検査値の読み方・考え方 [ハンディ版] 第3版	村田満・西崎統 編		総合医学社	
自由記載	教科書と講義資料を用いて講義します（白川）。講義資料を用いて講義します（三好）。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅱ		実習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間 （ 1 単位）		回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
ロービジョン学で習得した知識を活かして、視覚障害者施設におけるロービジョンケアの役割を理解するとともに、視覚障害者の安全面に配慮した声掛けや適切な誘導を実践します。病院実習では、患者様に対する思いやりある態度を習得し、医療倫理に基づく基本的マナーを実践します。3歳児健康診査見学では、母子保健事業における乳幼児の健診の概要を理解するとともに、健診に従事する視能訓練士の役割を理解します。保健医療チームにおける視能訓練士の役割を理解し、チーム医療の一員として社会に貢献できる態度を身につけます。				
授業の到達目標				
1. 視覚障がいの実態を理解し、患者や視覚障がいの方に対し適切な誘導法を実践することができる。2. 視覚障がい者に対する医療、福祉、教育の連携を理解する。3. 簡潔でわかりやすく患者に応じた検査説明をすることができる。4. 患者に対し安全に配慮し、年齢や状況に応じた対応ができる。5. 母子保健事業における3歳児健康診査の概要と視能訓練士の役割を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚障害者施設実習ガイダンス			
2	視覚障害者施設実習			
3	視覚障害者施設実習 振り返り			
4	病院 眼科実習ガイダンス			
5	病院 眼科実習			
6	病院 眼科実習 振り返り			
7	3歳児健康診査見学			
障害者施設実習		3カ所予定		
病院眼科実習		3日×7.75時間		
3歳児健康診査見学実習		1日×3時間		
合計		45時間（休憩時間を除く）		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習評価項目により評価します。（ガイダンスで説明する）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習 I		講義	谷口 誠典・山本 雅美・渡部 暁子 徳山 深里・荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
臨地実習Ⅲに向けてこれまで習得した基本的知識を定着させながらも、より臨床に即した思考を学習する。				
授業の到達目標				
1. 臨地実習Ⅲで患者様に実施することが多い眼科検査・訓練を実行することができる。 2. 臨床で遭遇することの多い眼疾患の検査結果が診断や治療評価にどのように役立てられるのかを紐づけることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	基礎医学大要			
2	基礎医学大要			
3	基礎医学大要			
4	基礎視能矯正学			
5	基礎視能矯正学			
6	基礎視能矯正学			
7	視能検査学			
8	視能検査学			
9	視能検査学			
10	視能障害学			
11	視能障害学			
12	視能障害学			
13	視能訓練学			
14	視能訓練学			
15	視能訓練学			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能訓練士セルフアセスメント第43～48回視能訓練士国家試験問題集	丸尾敏夫・久保田伸枝		文光堂	
視能訓練士国家試験合格ノート第2版	小林義治・松岡久美子		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習Ⅱ		講義	宮崎 茂雄・谷口 誠典・山本 雅美 ・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士に必要な学問的基礎固めをし、また臨床に必要な発展的知識の整理もできているのかを確認します。そのため、これまでに学んできたことについて総まとめの演習を行い、視能訓練士国家資格取得を目指します。				
授業の到達目標				
1. 視能訓練士に必要とされる発展的知識を身につけ臨床に応用することができる。 2. 国家試験出題基準に示されている事項を全て理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	視能障害学（宮崎）			
2	視能障害学（宮崎）			
3	視能障害学（宮崎）			
4	視能障害学（宮崎）			
5	視能障害学（宮崎）			
6	視能障害学（宮崎）			
7	総合模擬試験			
8	総合演習①			
9	総合演習①			
10	総合演習②			
11	総合演習②			
12	総合演習③			
13	総合演習③			
14	総合演習④			
15	総合演習④			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	第8講～15講の各演習にて評価を行い、平均して60%以上あれば合格とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
前期期間に再試験は実施しない。				

令和6年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅲ		実習	谷口 誠典・山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
540 時間 （ 12 単位）		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
各6週間の実習を3施設で行います。各医療機関の特色や地域での役割を理解するとともに眼科医師や視能訓練士のもとで眼科一般検査などを実際に患者へ実施し、実践に即した知識と技術を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
1. 臨地実習施設において実習生として相応しい態度、言葉遣いができる。 2. 患者の症状から適切な検査等を選択することができる。 3. 基本的な検査等を安全に実施することができる。 4. 教科書、文献などを参考に適切な実習記録を作成することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	臨地実習ガイダンス			
2	臨地実習 1 施設目			
3	臨地実習 振り返り			
4	臨地実習 2 施設目			
5	臨地実習 振り返り			
6	臨地実習 3 施設目			
7	臨地実習 振り返り			
8	実習報告会			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習項目により評価します。（詳細はガイダンスで説明する）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				